

87 Tc-99m 2回投与による脳RI Angiography
 -閉塞性脳血管障害に対する塩酸パパペリン負荷の試み-
 島村 修, 石津徹幸, 落合正和(京都洛東病院)
 足立晴彦, 伊地知浜夫(京府医大, 2内)

静注法脳RI AngiographyにおいてRIを2回連続的に投与した場合, 第1回目と第2回目の検査より算出したParametersの値の間には良い再現性がえられ, さらに2回の検査の間にAngiotensine, Methoxamineを投与し全身血圧を上昇させたところ, 慢性期閉塞性脳血管障害患者群で, Up-slope値(US値)が, 健側脳半球においてのみ有意の減少を示したことはすでに報告した。

今回は閉塞性脳血管障害患者30例に, 同様の方法で塩酸パパペリンの負荷を行い検討したところ, 慢性期例の健側脳半球のUS値は有意の増加を示したのに反し, 患側では変化が少なく, US値の左右比(USR)の増大が認められた。一方急性期または亜急性期例では, 反応は一様でなく, 5例はUSRが減少し, 明らかに増大したのは3例にすぎなかった。

上記の結果は, 昇圧剤負荷による試験とあわせ考察すると, 脳血管の薬剤に対する反応性の大小により生じた変化と考えられ, 特に塩酸パパペリンを負荷しての検査は, USRが増大することより, 反応性を評価するのが容易であり有用な方法であると考えた。

88 Tc-99m・HAMを用いた脳血流断層イメージング
 恵谷秀紀, 木村和文, 米田正太郎, 津田能康
 (阪大中放・一内), 宮井元伸, 田中健一,
 宇治 茂, 小田淳郎, 大西英之, 額田忠篤(国立
 大阪南病院)

標識人血清アルブミン・マイクロスフェア(HAM)は臓器血流分布の評価に利用されており, これの頸動脈内投与により脳血流分布の評価が可能である。今回我々は検出器回転型ガンマカメラECT装置を用いて脳血管障害例で, Tc-99m・HAMによる三次元的脳血流分布の検討を行ったので報告する。

対象は脳血管障害21例である。約5mCiのTc-99m・HAM(径15 μ m, 80,000個)を総頸動脈へ投与した後ECT装置(日立メディコ)を用いてデータ収集を行った。データ収集は360°を64stepで収集, 1stepの時間は15~20秒とした。画像再構成にはfiltered back projection法を用い, また吸収補正も行った。

対象として全例で脳血流分布の3次的把握が可能であった。Completed strokeでは低血流領域が明瞭に示された。しかしLacunar strokeなどの小病巣を有する症例では低血流領域を観察出来なかった。

本法は脳血流分布の3次的把握が可能であり, 臨牀的に有用な方法と考えられた。